



TITLE:

質疑應答

AUTHOR(S):

---

CITATION:

質疑應答. 地球 1929, 12(2): 158-158

ISSUE DATE:

1929-08-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183636>

RIGHT:

一工場に於て生芋を磨碎き澱粉の沈澱、乾燥、製粉迄全部操業するものにして概ね歐人經營の大工場は之に屬す、何れも廣大なる卒畑を有し、水道發電所を直營す、(B)田舎の小工場にては生芋より粗製澱粉をつくり之を附近の精製工場に賣込む、精粉工場は此土人粉を集め、混合して自己のブランドに適する様揃磨精製す、全部支那人の經營にして市價により生産高に増減あり。

### ○中村、松山兩教授榎山助教歸任 兼て留學中の

榎山助教は六月廿三日釧橋大學の留學を終り北アメリカへへて歸朝された、中村、松山兩教授も亦ジャバの太平洋學術會議に出張され七月一日歸任された、我等は三先生の錦誕からその朗麗な健筆によつて本誌が光彩を添へるであらう事を期待する。

## 質疑應答

【問】分岐(Virgation)と連鎖(Ketung)の意義

【答】分岐(Virgation)とはジュウスの「地球相貌論」第一卷に褶曲山脈の束の如く集つて並走するものに與へた名稱である。第四卷に至つてアパキア山脈に對するアザロンダツクの關係を前者の主分岐であるに對して後者を強勢されたる分岐とし主分岐の進行する間に起る局部的現象と見る。アルガンは最近の亞細亞構造論において分岐現象を更に研究し自由

分岐と閉塞分岐とに分類した。即ち自由分岐においては並走する山脈の間隔は山脈群の中央部において縮小し山脈の端において大となるのに、閉塞分岐において並走する山脈群の兩端が非褶曲性の古い地塊によつて妨げられ各山脈の間隔は中央部で廣く末端部で密集するのである。斯の如き場合には山脈群の走行が直線的である。之に反し自由分岐では山脈群の曲率が中央部で最大である。尙ほ Virgation を分岐と譯すことが適當であるの否かは甚だ疑問で或は並走とても譯すべきものではなからうか。即ち Virgatus は小枝の集つた狀況或は「縞をなす」褶曲山脈即ち並走山脈群の意とすべきではなからうか。

連鎖(Ketung)とはリヒトホーフエンの東亞地貌論に於いて時期を異にして生じた泰嶺と支那山系とが結び付く狀況に附した名稱である。ジュウスは地貌論第四卷に於いて同時期に生じた二つの山脈が兩端相接してV形を描く對面と區別するにリヒトホーフエンの附したこの名稱を採用した。これはデーナが地向斜と共に説明した地向斜性山脈(Geosynclinal chain)を略して山脈(Chain)と呼び、これを譯し、山脈(Kette)と稱するものとは別で二山脈の連結の意で連鎖と譯するよりは正直に結合と譯した方がよい。(H)